

○仏花向け組花の花材として**加工用中輪ギクを県域の推進品目として位置付け**生産拡大を推進。

○従来の草丈80cmを出荷規格とした栽培方法では、多大な初期投資と高度な技術を必要とすることから、新規栽培者は取り組み難いことが問題。

○新規栽培者が取り組みやすいよう、水稻育苗跡ハウス等の遊休ハウスを利用し、県が開発した少量土壌培地耕の技術を活用し、**実需者ニーズに即した新規格の草丈60cm程度の短茎栽培技術を普及拡大**する。

具体的な成果

1. 加工用中輪ギク産地の育成
生産者数の目標を60戸（平成32年度）とし、**集落営農法人等の大規模土地利用経営体を中心に、既存ハウスを利用した少量土壌栽培を推進。**

- ・平成28年度 3JA（3戸）
- ・平成29年度 6JA（28戸）
- ・平成30年度 9JA（34戸）



2. 加工用中輪ギク生産拡大
出荷目標を50万本（平成32年度）とし、**新規栽培者の確保と併せて、個々の生産規模拡大を進めた。**

- ・平成28年度 2.6万本出荷
- ・平成29年度 10.5万本出荷
- ・平成30年度 20.0万本出荷（見込み）

3. 明確な販売戦略による販路拡大
8月需要期の輸入中輪ギクの価格帯をターゲットとし、生産コストの削減と**需要期集中出荷（7月末～8月10日）により販売力を強化**し、実需（花束加工業者）を確保した。

- ・平成29年度需要期出荷率：99%
- ・販売先実需者数
平成28年度 関西1社
平成29年度 関西9社
関東1社

普及指導員の活動

1. 栽培マニュアルの作成
短茎中輪ギク需要期集中出荷栽培の確立に向け、調査研究により、定植時期や電照消灯時期、肥培管理について検討を行い、**栽培マニュアルを作成**した。（平成29年）

2. 広域連携による県一本化の取り組み
販売力強化に向け、栽培マニュアルをもとに、年間2回の県域研修会を開催し、**県内切り花品質の平準化**を図っている。

3. 花き卸売市場および実需との連携強化
実需者ニーズに即応するため、産地情報の提供だけでなく、**規格等や市場動向について常に情報交換を行っている**。（県域：年間1回、各地域：年間2～3回）

4. 課題解決のための実証ほの設置運営
市場や実需者の加工適性評価を受け、問題となった点については要因の分析を行い、**技術改善に向けた技術実証により、早期課題解決を行っている**。（毎年2～3か所）

普及指導員だからできたこと

・試験研究や他県の情報を活用するとともに、**民間企業と連携し、ICT等の新技術導入により迅速に現場の問題点の整理と課題解決を図り、**着実に目標を達成できている。

・**JA間連携を推進し、県域活動による生産振興**が図れた。

(詳細資料)

滋賀県

加工用中輪ギクの生産拡大

活動期間：平成 29 年度～31 年度

1. 取り組みの背景

仏花向け組花の花材として中輪ギクは需要が高く、特に 8 月のお盆などの需要期は品薄となっている。

しかし、従来の栽培方法では高度な技術を必要とすることから、新規栽培者は取り組み難く、県内では中輪ギクの新規栽培者はほとんど無いのが現状である。

そこで、新規栽培者を確保育成するため、比較的栽培しやすい花束加工向けに特化した中輪ギク（以下、加工用中輪ギク）の推進を行うとともに、JA 間の連携を強化することでロッドを確保し、花き卸売市場経由での販売先の確保をねらうこととした。

2. 活動内容（詳細）

平成 32 年度の加工用中輪ギク出荷目標数量を 50 万本に設定し、その目標達成に向け 60 戸の栽培者の確保を目指して、水稻育苗用ハウス等を利用した少量土壌培地耕（本県開発技術）による中輪ギク栽培の技術実証ほを、県内 5 カ所に設置した。実証ほは、県域指導者研修（県および JA）や新規栽培者確保に向けた地域研修会で活用した。



5//15 頃の田植後半の水稻育苗用ハウス



5//25 水稻育苗終了後プランターを設置しギク栽培開始

また、実需との結び付きを強化し販路を確保するため、花き卸売市場や花束加工業者との情報交換会を年 1 回開催している。

併せて、各 JA での共販体制の推進に加え、JA 間連携を強化し、県全域で規格等を統一することで、ロッドを確保した販路拡大を図っている。

また、普及指導員による調査研究の成果をとりまとめて栽培マニュアルを作

成し、需要期集中出荷および県内切り花品質の均平化を図っている。



県および各 JA と市場・実需との意見交換会



実証ほ場にて市場・実需との現地検討会

3. 具体的な成果（詳細）

生産拡大目標を県内各 JA と共通し連携した取り組みの結果、多くの集落営農法人を含む土地利用型経営体で取り組みが始まり、H29 年度は目標の 10 万本出荷が達成でき、H30 年度についても目標達成に向け順調に生育している。

また、販路については市場および実需者と連携し、出荷規格や出荷時期を調整することで、関西だけでなく、関東からも取扱いに強い要望があり、生産者の生産意欲向上につながった。

	H28	H29	H30	H32
目標出荷本数		10 万本	20 万本	50 万本
出荷実績	2.6 万本	10.5 万本	20 万本見込み	



集落営農法人での収穫・出荷調製の様子

関西向け出荷荷姿（55 c m）

4. 農家等からの評価・コメント

計画的に生産出荷ができるところが魅力です。次年度は増やしたい（法人A）
販売先が確保されていて、推進しやすい。（JA）
需要はまだまだ有るので、増産をお願いします。（市場）

5. 普及指導員のコメント（滋賀県農業技術振興センター 主幹 大堀英樹）

JA と連携した県域活動と販売先の確保および、少量土壌培地耕による中輪ギク生産技術が生産者に評価されたことで、急速な生産拡大を行うことができた。

6. 現状・今後の展開等

今後も小ギクや中輪ギク等の生産拡大を図るとともに、新たな需要に応えるため、品目数についても今後増加し加工用切り花産地を育成していく。